

方策1. 最良の建物配置をつくり出す

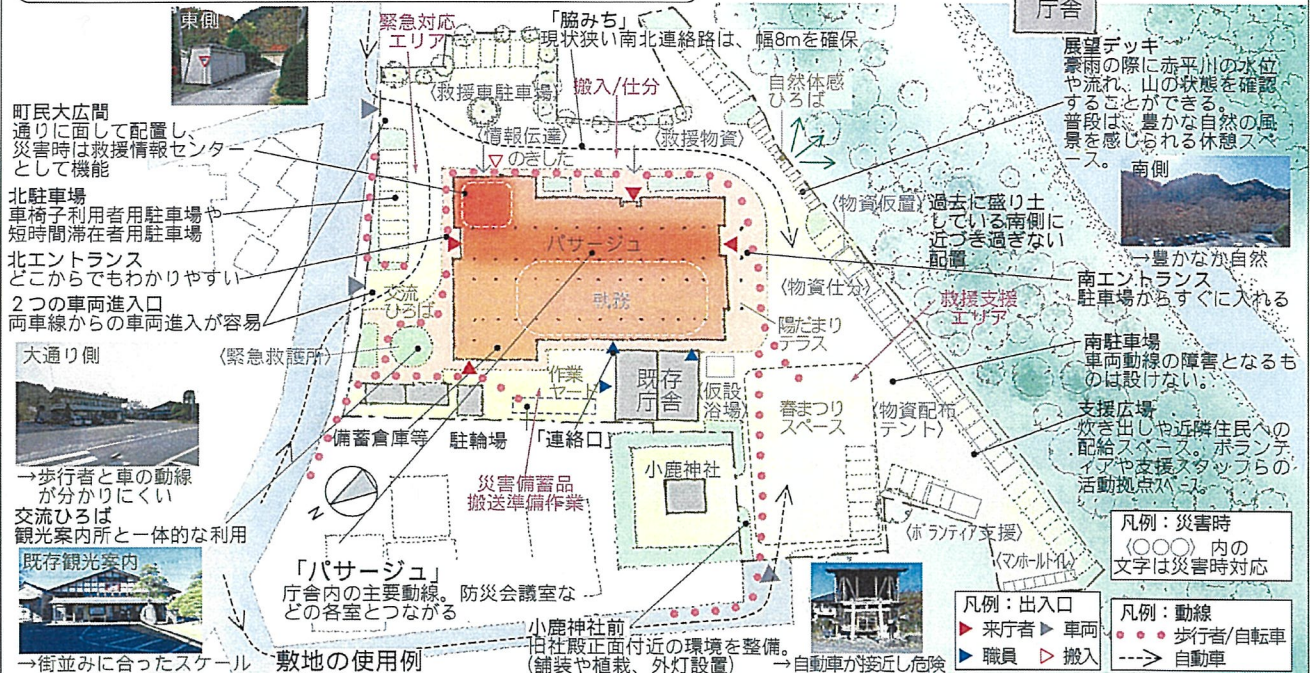
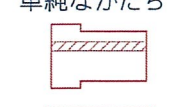
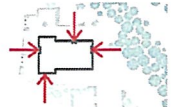
安心安全な庁舎の基本＝

1. 入りやすく 2. わかりやすく 3. 集いやすい

四方から入れる

明快な入口
単純なカタチ

多様な場を分散



方策2. 安全で堅牢な建物をつくる

1. 建築基準法以上の高い耐震性を確保

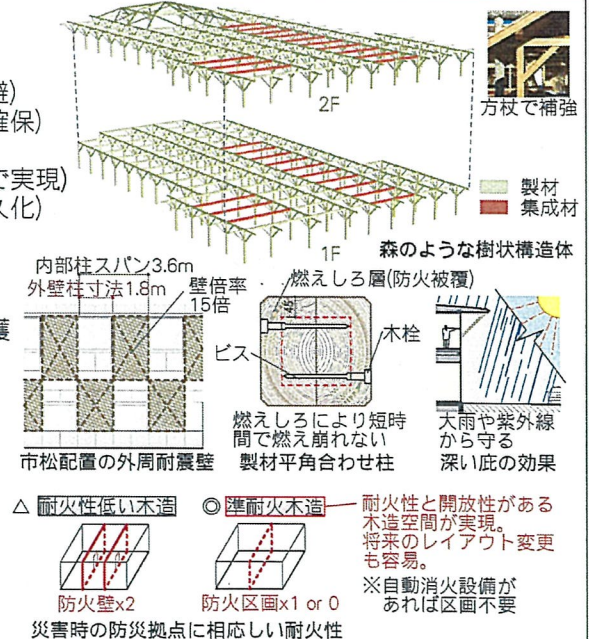
- ・ 整形平面とし耐震壁をバランス良く配置 (応力集中を回避)
- ・ 外壁に耐震壁を市松状に配置 (内部の自由度と堅牢性を確保)
- ・ 方杖を設け、接合部の負担を軽減 (合理的な部材断面)
- ・ 製材の合わせ柱を使用 (大断面集成材と同等強度を製材で実現)
- ・ 軒を大きく出し紫外線による躯体劣化を軽減 (躯体の耐久化)
- ・ 直接基礎+地盤改良土 (合理的な構造)
- ・ 天井や造作家具、設備機器などの耐震化を徹底

2. 豪雨や強風に強い造り

- ・ 勾配屋根と深い軒先で建物を包み、外壁面を風雨から保護
- ・ ガラスは耐風計算による基準値以上の強度を確保
- ・ 長大なガラスカーテンウォールは不使用

3. 木造部分を最大化し、木の魅力を損なわない防耐火設計

- ・ 現しとする木架構に燃えしる層を見込み、構造上必要な断面に対する焼損の影響を減らし、避難や消防活動時間を確保 (45分準耐火構造)
- ・ 保存書庫やサーバ-室は、個別区画により防火性を向上
- ・ 延焼の危険性が高い天井面は不燃化。(延焼拡大防止)
- ・ 地下ピットの一部は防火水槽(地域の消火活動支援)



方策3. 災害時にも持続的に運用できるシステムを用意

1. 供給エネルギーの多重化

- ・ 2回線受電により信頼性を向上
- ・ 空調熱源は空冷HPチャ-、ガス/油焚冷温水発生機

2. 飲料水及び生活用水の確保

- ・ 受水槽を設け、機能継続時間の容量を確保
- ・ 非常用に井水を整備

3. 通信インフラの多重化

- ・ 光ファイバー、衛星通信、WiFiによる多重化

4. 燃料の備蓄

- ・ 非常用発電機は、機能維持時間72時間以上燃料を備蓄

5. 初期消火能力の確保

- ・ 自動消火設備の導入を検討

6. トイレ機能の維持

- ・ 非常用汚水ピットの設置を検討
- ・ 便器洗浄用に雨水/井水を使用
- ・ 災害用マ-レットを設置